

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード		3-2-1	3-2-3	事業名	環境保全型農業支援事業
担当	経済局農務部農業支援センター 高井 787-2220				
事業内容	全体計画（当初）				
	土づくり・減農薬栽培等による持続性の高い農業生産を实践する農業者を「エコファーマー」として明確に位置付け（知事認定）、育成拡大を図る。また都市廃棄物である街路樹等の剪定枝チップを活用して家畜排泄物の堆肥化を進め、これをエコファーマーを中心に農業利用を図ることにより、資源リサイクルを形成し環境保全型農業を推進する。 ○エコファーマー支援事業：土づくりを基本に化学肥料・農薬を低減する生産技術導入によるエコファーマーの育成拡大。安定生産・供給のための組織づくりと消費拡大PR ○有機資源循環モデル事業：産学官協働による有機資源循環システム研究会の立ち上げ。剪定枝チップ使用良質堆肥生産モデル実規模試験の実施。		<年度別の事業内容>		
			○16年度：エコファーマー支援事業（認定拡大の研修会開催等） 有機資源循環システム研究会開催（完熟堆肥生産モデル事業） ○17年度：エコファーマー支援事業（普及マニュアル・PRパンフレット作成） 有機資源循環システム研究会開催（栽培試験調査等） ○18年度：エコファーマー支援事業（普及マニュアル・PRパンフレット作成） 有機資源循環システム研究会（耕畜連携システムモデル事業）		
事業内容（量・場所・規模等）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）		
	エコファーマー支援事業費 373千円 （先進地視察等） 有機資源循環システム研究会開催費 2,630千円 （産学官協働による堆肥化の調査研究、事例調査等） 剪定枝チップ使用良質堆肥生産モデル実規模試験 1,594千円 （現地試験調査、原材料費等） （事業費：4,597千円）		エコファーマー支援事業費 604千円 （普及マニュアル・PRパンフ作成、現地実証試験等） 有機資源循環システム研究会開催費 2,023千円 （産学官協働による堆肥化の調査研究、事例調査等） 剪定枝チップ使用良質堆肥生産モデル実規模試験 1,073千円 （現地試験調査、原材料費等） （事業費：3,700千円）		
事業内容（量・場所・規模等）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）		
	エコファーマー支援事業費 320千円 （認定拡大、現地実証試験、事例調査等） 有機資源循環システム調査研究 1,135千円 （アンケート調査、ワークショップ、剪定枝チップ利用拡大等） 耕畜連携システムモデル事業 1,010千円 （現地試験調査、原材料費、事例調査等） （事業費：2,465千円）		・エコファーマー支援事業～ エコファーマーが増えることにより生産者自ら安全・安心な農産物を生産する意識が高まり、それに伴い学校給食での食材提供の要望が寄せられたり、収穫祭イベントを通じて、一般市民への啓発・普及も拡大している。 ・有機資源循環モデル事業～ 街路樹等の剪定枝チップと家畜排泄物を利用した堆肥を生産するもので、双方の有効活用が促進され、環境保全型の農業が推進されつつある。		
事業内容（量・場所・規模等）			課題		
			・エコファーマー支援事業～ 消費者へのPRの徹底 認定作物の販売促進 生産組織単位での認定促進 ・有機資源循環モデル事業～ チップの形状など技術的な課題 農家への普及拡大のためのシステム化や効率的な散布方法		
19年度以降の方向性（事業予定）					
○エコファーマー支援事業～ 「さっぽろ都市農業ビジョン」（平成18年3月策定）の中で、地産地消プロジェクトの推進目標の一つとして、エコファーマーの登録誘導を掲げているが、平成19年度より本市独自の農産物認証制度である「さっぽろとれたてっこ認証制度」が立ち上った事により、当面はこれらの認証登録を優先的に誘導する。 ○有機資源循環モデル事業～ この3ヵ年のモデル事業での調査研究・実証試験成果を踏まえ、「堆肥散布コントラクター事業」として農作業受委託（堆肥散布）システム構築や剪定枝以外の堆肥副資材の検討、普及啓発事業など、より実践的なメニューに取り組む。					

